

継続的専門能力開発(CPD)実施方法と報告書記載方法

継続的専門能力開発とは ISO19011 に定義されている語で、知識、技能、個人的特質の維持および向上を目的とした活動です。英語では CPD(Continual Professional Development)となります。各審査員には1年に一定時間の継続的専門能力開発(CPD)を実施して頂き、その結果を維持登録時、更新登録時に報告して頂きます。

1. 継続的専門能力開発(CPD)実施の条件

継続的専門能力開発(CPD)は以下の条件を満足して下さい。

- ・継続的専門能力開発は追加の業務経験、訓練、個人学習、指導、会合、セミナー、会議、その他関連する諸活動といった方法で可能となります(ISO19011 7.5.1 項)。ただし、通常の業務として行ったものは継続的専門能力開発(CPD)の範囲ではありません。
- ・継続的専門能力開発(CPD)は維持登録日、更新登録日の直近1年に実施したものであること。
- ・継続的専門能力開発(CPD)にかける時間は以下の時間数を満たすこと。

	維持登録時	更新登録時
審査員補	5時間*	5時間*
審査員	15時間	15時間
主任審査員	15時間	15時間

* : 審査員補の場合は継続的専門能力開発(CPD)、教育受講、審査実績 / 監査実績、いずれかの選択となります。

2. 継続的専門能力開発(CPD)のテーマ

継続的専門能力開発(CPD)を行うテーマとしては、ISMS 審査員の知識、技能の向上、ISMS 審査業務の向上に資するものであれば幅広く該当します。以下のようなテーマが例として挙げられます。

ISMS 規格及び他の関連する基準文書
情報技術
情報セキュリティ技術
リスクアセスメント、リスクマネジメント
ISMS 関連法規制、要求事項
ISMS に関連する監査の原則
ISMS の有効性のレビュー
管理策の有効性の測定
ISMS 審査技術

3. 継続的専門能力開発(CPD)の実施方法

継続的専門能力開発(CPD)を実施する場合、以下の手順に沿って実施して下さい。

- ・継続的専門能力開発(CPD)の目的を明確にする

- ・目的に合致した継続的専門能力開発(CPD)の方法、テーマを決定する
- ・決定した継続的専門能力開発(CPD)を実施する
- ・目的に対応した専門能力の習得を行う

4. 継続的専門能力開発(CPD)報告書の記載要領

様式4にしたがい、以下の項目について記載してください。

- ・継続的専門能力開発(CPD)の目的方法
- ・継続的専門能力開発(CPD)の方法・テーマ
- ・継続的専門能力開発(CPD)を実施した期間
- ・継続的専門能力開発(CPD)にかけた時間
- ・継続的専門能力開発(CPD)によって習得した事項

5. 継続的専門能力開発(CPD)の目的

ご自身の自主的・主体的な目的を記述して下さい。これは「研修会自身の目的」ではありませんし、「研修会への参加」、「読書すること」も方法であって目的ではありません。

6. 継続的専門能力開発(CPD)によって習得した事項

参加した研修会の概要や、読書した書籍の概要を求めているわけではありませんし、実施したこと(～討議した、～作成した、～確認した、等)を記述するものではありません。習得した「項目」ではなく、習得した「内容」を申請者自身の言葉で、具体的に記述して下さい。(600から1000文字を目処に記述)。「項目」と「内容」の記述の違いについては以下の例を参考にして下さい。

習得した項目: パソコンの処理性能

習得した内容: パソコンの処理性能についてはCPU能力、ディスク等の外部記憶装置の能力、メモリサイズが重要な役割を果たす。それぞれの能力を向上させることでパソコン全体の性能が上がることは事実であるが、3者のバランスを考慮することによってより投資に見合う効果が得られることを理解した。

以上